

■e-黒板ニュース（第15号）：体育と電子情報ボード

機器貸出依頼のあった兵庫県の兵庫県立西宮今津高等学校に来ています。ラグビー・ジャパン監督の萩本氏を招いた体育科・情報科連携学習「スペースボールプロジェクト」が今日と明日の2日間実施されます。授業の様子や感想をレポートします。情報化担当の佐藤万寿美先生にもインタビューをしました。

また、今回は体育での電子情報ボードの活用のケースということで、過去の調査の中で体育の事例を振り返ってみました。

みなさまからの「体育での活用事例」やその有効性、他の教科での活用事例のご紹介等のメールをお待ちしています。

今号の目次：

- =====
1. 報告：兵庫県西宮今津高等学校訪問中
 2. 過去の事例紹介等：体育と電子情報ボード
 3. インタビュー調査：創造的なe-黒板の使い方（つくば市並木小学校：野村教諭）
- =====

お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。また、配信中止のご連絡もお願いします。

会員の皆様からの投稿もお待ちしています。
宛先はいつでも ekokuban@cec.or.jp です。

e-黒板研究会のホームページ

<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban>

をご参照ください。e-黒板ニュースのバックナンバー等もご覧いただけます。

10月5日現在の会員数は179名です。

1. 報告：兵庫県立西宮今津高等学校訪問中

兵庫県立西宮今津高等学校の佐藤万寿美先生には、昨年度の成果発表会（2004. 3. 5-6）の成果発表会では、ポスターセッション形式での発表をしていただきました。今回は、e-黒板研究会の機器貸出の依頼をいただき、実践授業の案内をいただきましたので、学校を訪問させていただきました。

体育科・情報科連携学習「スペースボールプロジェクト」で、ラグビーjapan監督の萩本氏を招いた、専門家による技術指導ということで、その授業を見学することができました。

練習メニューなどは動画コンテンツをフルに活用し、スペースの取り方などビジュアルで分析しながら、授業を展開するという計画です。

- ・ビデオ画像を途中で静止させ、ペン入力スペースの取り方などのアドバイスを書き込む
 - ・遅延回路を使って、実技の直後に画像をチェックし、子どもたち自身に「振り返り」をさせる
- といったことが狙いです。

電子情報ボードの典型的な活用方法かもしれませんが、ただし、準備期間が十分でなかったために、今日は狙ったことが十分に達成できなかったのは残念でした。

今回の我々、事務局としての反省点は、要求された機器を単に貸し出すだけでなく、「それを使って、先生は何を目指して、どのような授業をやりたいのか」ということをよく理解したうえで、機器のセッティングや操作指導・活用方法の説明が必要であることに気づいていなかったことです。今後は、今回の経験を踏まえて、機器の貸出が素晴らしいIT活用の授業につながるよう努力したいと思います。最初の機会で見つけようと思ってよかったです。

今回の授業は、兵庫県教育委員会が中心になり取り組んでいる「未来教室プロジェクト」の一環で、授業の様子をライブ配信もしているそうです。明日（10月6日）も配信されるそうなので、ぜひご覧ください。西宮今津高等学校のページ、<http://www.hyogo-c.ed.jp/~imazu-hs/>からアクセスできます。

「電子情報ボードは、体育科としては魅力的な機材のようです。担当者が体育館競技（バスケット・新体操）の専門ですので、部活で使いたいと言っておりました。」と佐藤先生はおっしゃっていました。廣谷校長先生と30分程、お話をする機会がありました。この校長先生の情熱と理解があつてこそ、佐藤先生も全国を飛び歩いて活躍できるのだということも分かりました。

今月末に国体があり、同校から3人の生徒が新体操で出場するので、もし貸し出しが延長できたら、電子情報ボードを活用して、演技の向上に役立てたいとのことでした。調整したいと思います。電子情報ボードが役立って、いい成績が上げられたら、それこそ、IT活用の効果ですよね。でも、その成果が目に見えるようになるのは、来年以降になるのかもしれませんが。

2. 過去の事例紹介等：体育と電子情報ボード

昨年度の成果物である「電子情報ボードを活用した実践事例集」CD-ROM
<http://www.cec.or.jp/Ekokuban2004/index.html>
 に収録されている『電子情報ボードを活用した「わかる授業」』、岡山県の取組み：「みて！みて！IT」では、「とび箱」と「マット運動」の例が動画・静止画とともに示されています。

<http://www.cec.or.jp/Ekokuban2004/mitemiteIT/index.htm>
 をご覧下さい。

評価の4観点でいえば、「関心・意欲・態度」はもちろん、特に「技能・表現」についてその教育的効果が期待されると言えるのではないのでしょうか。

「とび箱」の活用⇒効果 としては、次のようにまとめられています。

- コンテンツのスロー再生や繰り返し再生によりポイントを説明。
⇒自分の選んだ跳び方についてイメージ化。各自の課題把握が可能。
 - コンテンツのスロー再生や繰り返し再生、書き込みなどで説明。
⇒自分の選んだ跳び方についてイメージ化。各自の課題把握が可能。
 - 生徒が撮影した動画を、一時停止、繰り返し再生して、演技の振り返り。
⇒自分の演技の全容や改善点の把握。
 - 送信機付き超小型カメラを使って、プロジェクタに投影。書き込みながら説明。
⇒各自の練習場所で、手の位置や踏み切り点等の留意点を把握。
 - 自分の演技が投影された動画とCECが配信している模範演技を比較。
⇒自分の演技の確認、イメージ取得、改善。
 - 生徒が撮影した動画を再生した後、技の改善点についての話し合い。
⇒生徒同士の演技分析可能。次時の課題把握とポイントの共有化が可能。
- 「マット運動」の活用⇒効果 としては、次のようにまとめられています。
- 本時のねらいを電子情報ボードで説明。前時に録画した生徒の演技を動画再生し、練習のポイントの説明。
⇒友だちの演技を止めたり動かししたりして、練習するねらいを明確化。
 - ボードに模範演技を再生。左側はスロー再生、右側は動画再生。指でなぞることにより自由に進めたり戻したりできる動画で、繰り返し分かるまで説明。
⇒模範演技により、イメージが伝わり、練習のポイントを理解。
 - ボードに模範演技を再生。専用ペンで書き込み、ポイントを説明。
⇒画面上で具体的な画像に書き込まれ、練習のポイントを理解。
 - ボードに模範演技を再生。左側はスロー再生、右側は動画再生。指でなぞることにより自由に進めたり戻したりできる動画で、繰り返し分かるまで説明。
⇒模範演技により、イメージが伝わり、練習のポイントを理解。
 - ボードの模範演技を自由に動かし、イメージ化。納得するまで操作。
⇒理解の早さに合わせて操作。具体的な演技のイメージを獲得。
 - グループでノート型コンピュータの映像を見たり、ボードを指で操作しながら演技を見る。
⇒グループで話し合い、動画を操作。友だちの演技の改良点やよい点などの具体的な教え合い。

3. インタビュー調査：創造的なe-黒板の使い方（つくば市並木小学校：野村教諭）

（このインタビューは、調査を依頼している三菱総研の吉村春美さんからのご報告です。）

去る9月7日、つくば市並木小学校でe-黒板を利用して、非常に創造的な授業実践をしておられる野村光弘教諭にe-黒板の効果的な活用方法についてお話を伺いました。野村先生によると、「体育の教科指導では、e-黒板やその他情報機器の利用の第一目的は技能を高めることですが、副次的な効果が素晴らしいと感じています。例えば、跳び箱の授業で、子どもの実技を撮影し、その動画をe-黒板に投影して、クラスメート同士でどう跳んだらよいか話し合います。跳び箱を飛ぶという体育の実技指導が、クラスメート同士の話し合いや、励まし合いに発展し、さらにはクラスメートに励まされて跳べるようになった子どもが自信を持つようになるんです。体育の技能を高めるためには、意欲関心の向上が必要で、そのためには、子ども同士の係わり合いを高めることが必要なんです。e-黒板は、知識や技能を提示するだけでなく、子どもたち

同士の係わり合いを深め、自信を持たせるためにも有効に使うことができるんです。」というお話でした。

野村先生のお話を伺って、自信に満ちた子どもたちの笑顔が目に見え、子どもたちにどんな力を身に付けさせたいか、それを追求するとe-黒板は必然的なツールになってくるのではないかと考えてきます。

◆記事訂正

前号（第14号）に誤りがありました。

3. 今後の訪問予定&イベント：会員みなさまからのご連絡を基に
○10月15日（金）：小金井市立小金井第一小学校（こがねいねっと：根本氏）

は、

【正】

○10月15日（金）：府中市立府中第一小学校（こがねいねっと：根本氏）
・訪問&実践授業見学
・インタビュー&意見交換
・平成15年度のEスクエア・アドバンス「対話型電子白板利用授業における有効活用」の対象校
・関連URL：http://koganei-net.org/e_square/e_square.htm

です。

お詫びして訂正させていただきます。

なお、Webページのバックナンバー

<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/eknews/eknews014.txt>

は、訂正済のものを掲載させていただいています。

以上

=====
編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター 関 幸一
e-黒板ニュース メールアドレス： ekokuban@cec.or.jp
e-黒板研究会 ホームページ： <http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/>
=====